4-2. 自然再生協議会全国会議

主務省庁（国）では、自然再生協議会全国会議を開催することにより、法定協議会間の連携、自然再生の効率的な運営手法や有効な情報等に関する意見交換・情報共有を促進するよう支援を進めています。

詳細

全国から自然再生協議会の関係者が一同に集まり、自然再生に取り組まれている地域の現地視察や、協議会間で意見交換・情報交換を行う「自然再生協議会全国会議」を毎年開催しています。

自然再生事業実施地区で開催され、開催地の法定協議会と環境省が全国会議の企画・運営を行います。

北海道から沖縄まで全国各地から自然再生協議会の関係者が集まります。会議は１日目の昼に始まり、２日目の昼に解散という工程で２日間に及びます。

1日目に開催場所の自然再生事業の取り組みを現地視察したり、実施状況の報告や質疑応答を行い、２日目は環境省が設定したテーマで発表や意見交換を行い情報を共有するスタイルで実施することが多いです。

自然再生協議会のメンバー（人数制限あり）には、会議出席のための交通費や宿泊費が国から支給されます。

全国会議での意見交換
（平成 30 年度 麻機遊水地保全活用推進協議会）

全国会議での再生地視察
（平成 30 年度 麻機遊水地保全活用推進協議会）

コラム Column

自然再生協議会全国会議

令和元年度の自然再生協議会全国会議は9月18日（水）・19日（木）の2日間の日程で、山口県の椹野川河口域・干潟自然再生協議会の取り組み地域で開催されました。会議には全国各地から66名（事務局除く）が集まりました。

ホテルでスライドを使った椹野川河口域・干潟自然再生協議会の取り組みの講演を聞いた後、バスに分乗して河口域干潟に移動、干潟に足を踏み入れました。一時期は環境の悪化が深刻だった干潟ですが、干潟や流域での様々な取り組みの結果、確実に「里海」として再生しており、多種多様な生物が生息している状況を確認することができました。自然再生の活動のシンボルでもあり、国指定天然記念物カブトガニがみられるとあって、参加者は熱心に干潟を観察していました。

その後は、きらら自然観察公園に場所を移し、開発を免れた干潟や広大なヨシ原を取り入れた公園が渡り鳥の貴重な中継地やねぐらとして利用されている様子を見学しました。

１日目の最後は懇親会（任意参加）です。公式プログラムを終え、リラックスした状態で参加者同士で相談したり、数年ぶりの再会に談笑するなど、親睦を深めたり、新たな出会いが生まれていました。

２日目は関係省庁からの最新の情報提供に加え、「協議会の設立」「人材の育成・確保」「資金の確保」の3テーマについて3つのグループにわかれて意見を交わしました。60分の分科会は「時間がたりない」「もう少し長ければよい」と中身の濃い議論が行われました。

「いろいろな協議会の関係者の意見が聞けてよかった」「有用な情報が得られた」「自分たちの課題がクリアに見えた」と充実した会議だったようです。